

難める者の苦を軽くし數多の貴重なる人命を救ひ慈善の實行と基督教の模範とを亞細亞洲に表彰して、イ、エ、キ、リ、ス、トが地上に來りて樹立せんとしたる彼の「人を愛せ」との道に一步を進むることを得たるものと言ふべし。」と結んでいる。なお、次の一文が挿入されている。「右ノ一篇ヲ一覽アリテ此學ヲ翼賛シ多少ノ義捐ヲ賜フノ諸士アラバ幸ニ左記ノ所マテ御一報アランコトヲ乞フ。京都上京区寺町通丸太町上ル、本校創立事務假本部 新島襄」

(日本大学松戸歯学部)

陸軍看病人について

黒澤嘉幸

明治四年、廃藩置県が行われるとともに、陸軍は常備兵を国内各地に配置する政策を進めた。鎮台や屯営等の整備である。

鎮台や屯営には、それぞれ病院や病室が設けられるようになったから、それら施設で働く医師、薬剤師、看護員が必要になった。

しかしながら、軍は平時の勤務だけではなく、有時、野戦において行動しなければならぬから、衛生要員もそれに対応できる特性を持つていなければならぬ。衛生要員の勤務する機関等は別して次の三つがあった。

○平時、編制されていて、有時には出動するもの。例…歩兵連隊(以下「部隊」という)。

○平時、有時とも国内にあるもの。(以下、「病院、病室」という。)

○有時、編成されて野戦に勤務する機関等。(以下「野戦衛生部隊」と呼ぶ。)

陸軍が明治初期に考えた衛生要員は前の三種に共通に勤務できる要員であった。すなわち、医師は医官、薬剤師は薬剤官、看護要員は看病人、看病卒であった。

一 看病人について

前述の制度は明治四年頃から作業がはじまったと考えられ、明治五年の「在外会計部大綱條例」には看病人について記録されている。

しかし、看病人の資格が明確に規定されているのは、明治六年五月八日に改正された陸海軍武官官等表で、看病人は会計部下士として一等看病人(曹長)、二等看病人(軍曹)、三等看病人(伍長)が明記されている。服装は陸軍会計部下士官の服装で、サーベルを帯びていた。明治六年には病兵に対し、次の注意がでている。

看病人は下士官、看病卒は兵卒と同等であって、医官に

したが、病室の一切を取締りあるいは看護を行うものであるから、病兵は使役に使つてはいけない。たがいに敬礼をしなければならぬ。

これらの看病人は徴兵ではなく、志願制であった。

二 看病人の名称変更

明治十六年五月、看病人は看護長に変更された。明治十八年の武官俸給表には、一等、二等、三等看護長として載せられている。

三 陸軍看病人について

明治二十一年十二月、新しく陸軍看病人の制度がつくられた。

この看病人の特徴は、雇員であって、従来の看病卒の業務にあたる患者の看護および看護に関する雑務を任務とした。

この看病人は病院、病室に勤務するばかりでなく、明治二十七年、八年戦役には野戦病院の看護要員として、出征したが、明治三十二年、野戦衛生部隊の定員から削除され

た。また、明治四十二年、この制度は全廃され、看病人は陸軍看護体制から消滅することとなった。

(埼玉県所沢市)

創立時の「済生学舎」の人脈

唐 沢 信 安

長谷川泰（長岡市出身）の経営する「済生学舎」が、明治九年から三十六年八月末日の廃校迄に日本の開業医、特に西洋医学を学んだ医師の半数以上を養成した事は、医学史上重要な意義を有する。

その中に野口英世や吉岡弥生・光田健輔が居た事を忘れてはならない。

済生学舎創立時の記録は今日極めて少なく不明な点が多い。そこで筆者は東京都公文書館に残る資料、其の他の文献に基いて創立前後の様子を述べてみたい。

長谷川泰は東京医学校校長心得（副校長）の地位にあって、初代校長相良知安のよき協力者であったため、ドイツ医学導入問題、藩閥政治の波にからみ、明治七年八月二